

一、東京市電労働争議に於ける賃銀問題

一、東京市電氣局労働争議經過

四〇

東京市電労働争議に於ける賃銀問題

(1)

今回の東京市電労働争議は、その形態に於て罷業参加人員並に罷業日數の大なること、労働争議調停法の發動による強制調停委員會の成立とその決裂、再罷業等労働争議史上特筆さるべきものであつたが、尙ほ今回の争議の原因となつた市電更生案乃至はその結末等その内容に立入つて仔細に検討する時は、我々に幾多の興味ある研究題目を提供した。即ち第一に赤字対策として人件費の削減が先に爲さるべきか他の手段が先に講ぜらるべきか。第二は人件費削減の方策としては賃銀引下によるべきか、人員整理によるべきか、或は又高給者の整理と低給者の新採用によるべきか。第三には物價殊に生計費の昂騰しつゝある際に於て賃銀引下げを爲すことが妥當なりや否や。第四には賃銀引下げが不可避のものとして何程の引下げを以て妥當とするか。第五には賃銀引下げによる減收補償としての退職手当其他の整理手当支給の妥當性如何。第六には市當局のとりし一齊解雇再採用の手段は妥當なりや等の問題は雇傭制度の存続する限りに於て常に頻發すべく、又従つて充分に検討されべき問題である。今回の労働争議に於ける市當局と従業員側の意見の對立も、勞資双方に寄せられたる輿論の對立も、共に是等の問題を廻つて甲論乙駁の觀を呈して居る。以下是等の問題につき若干の資料と意見を提供して大方の研究の資に供したいと思ふ。